

国立研究開発法人「科学技術振興機構(JST)」  
社会技術研究開発センター(RISTEX)  
研究開発領域「安全な暮らしをつくる新しい公 / 私空間の構築」

多専門連携による  
司法面接の実施を促進する  
研修プログラムの開発と実装

# NEWS LETTER

# 1

September, 2016

国立研究開発法人「科学技術振興機構(JST)」  
社会技術研究開発センター(RISTEX)  
研究開発領域「安全な暮らしをつくる新しい公 / 私空間の構築」

多専門連携による  
司法面接の実施を促進する  
研修プログラムの開発と実装

プロジェクト代表

北海道大学大学院文学研究科  
心理システム科学講座  
教授 仲真紀子

司法面接支援室

060-0810 札幌市北区北10条西7丁目  
北海道大学大学院文学研究科内  
TEL/FAX : 011-706-2306  
child@let.hokudai.ac.jp  
http://child.let.hokudai.ac.jp/

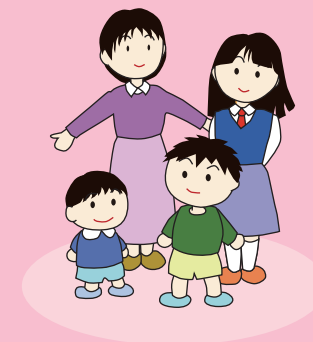
2016年9月発行

## INDEX

プロジェクト「多専門連携による司法面接の実施を  
促進する研修プログラムの開発と実装」始動に当たって

プロジェクト代表 仲真紀子

- 研究グループ紹介 1～仲グループ・司法面接支援室～ …2
- 研究グループ紹介 2～羽渕グループ～ …3
- 研究グループ紹介 3～田中グループ～ …4
- 司法面接トレーナー研修 …5
- イベント実施リストとお知らせ …6



# プロジェクト「多専門連携による司法面接の実施を促進する研修プログラムの開発と実装」始動に当たって

プロジェクト代表

北海道大学大学院 文学研究科 教授 仲 真紀子



本プロジェクトは、科学技術振興機構・社会技術研究開発センター（JST・RISTEX）の研究開発領域「安全な暮らしをつくる新しい公／私空間の構築」の一つとしてスタートしました。

## プロジェクトの目標

虐待、DV、いじめなど、閉じられた親密な関係性の中での被害は発見が遅れがちであり、事実確認は容易ではありません。しつけなのか虐待なのか、愛情なのか暴力なのか、遊びなのかいじめなのか、加害している側にも被害を受けている側にも区別が難しく、報告がなされにくいという問題があります。また、報告がなされたとしても、被害者が加害者との関係性を断てなかったり、福祉、司法、医療、教育、心理臨床などの多重的な介入が必要なために、聴取回数が増え、その結果、供述が変遷し、精神的な二次被害が高まるなどの問題もあります。

本プロジェクトでは、多専門連携を困難にしている心理的要因を調査し、精神的負担に配慮しつつ正確な情報収集を目指す面接法（司法面接）の開発・改善、習得、共有、連携を支援するプログラムの開発と実装を目指します。研修と基礎的研究を繰り返しながらプログラムの充実を図るとともに、司法面接研修、トレーナーの育成、実事例の支援を通じてその社会実装を図ります。

## プロジェクトが考える「新しい公／私空間」とは

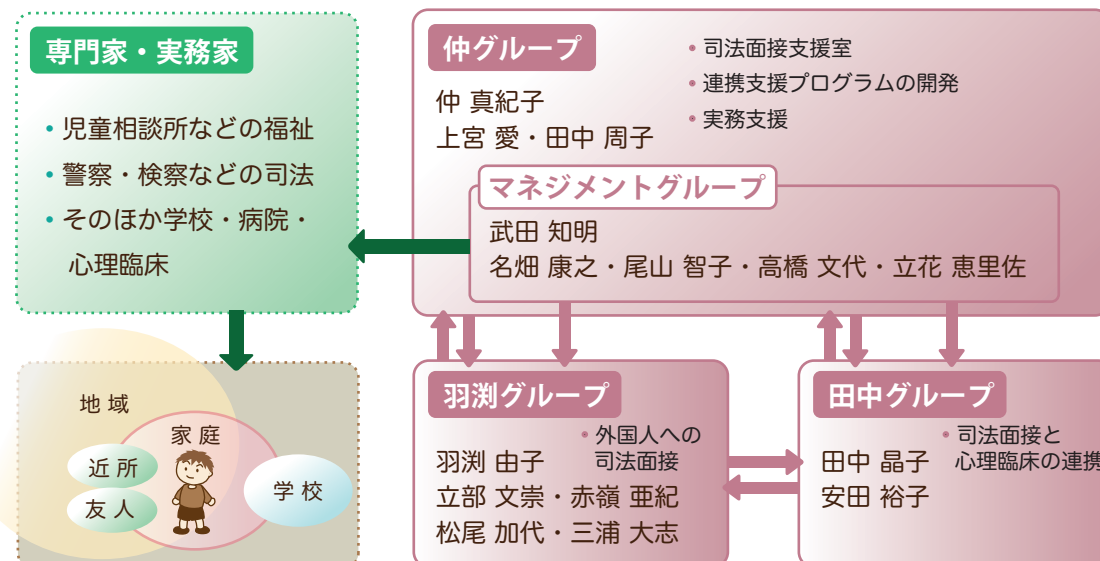
JST・RISTEXの研究開発領域では「公／私空間」を重視しています。

本プロジェクトでは、「公」として、児童相談所、警察、検察、学校、病院、ワンストップセンターなどの公の機関を想定します。まずは児童相談所（福祉）と警察、検察（司法）の連携を中心に据えてプロジェクトを進めますが、これらに限らず、学校、病院などの機関連携も視野に入れて行きたいと考えています。また、問題とする「私的空間」の「私」は加害・被害の当事者であり、プロジェクト開始時において「間」となるのは私たち提案者・実施者であると考えています。

## 研究開発グループ

本プロジェクトは、研究代表者が率いる仲グループ・司法面接室と、羽淵グループ、田中グループより構成されています。仲グループと司法面接支援室は、多専門連携による司法面接を推進する研修プログラムの開発と実装に向けた活動を行うとともに、羽淵グループと田中グループの研究・実践活動を支援します。

- ・仲 真紀子グループ・司法面接支援室：北海道大学大学院 文学研究科、立正大学 心理臨床センター、名古屋大学大学院 環境学研究科
- ・羽淵 由子グループ：徳山大学 福祉情報学部・経済学部、名古屋学芸大学 ヒューマンケア学部、明治大学 研究知財戦略機構、慶應義塾大学 先端研究センター
- ・田中 晶子グループ：四天王寺大学 人文社会学部、立命館大学 総合心理学部



# 研究グループの紹介 1

仲グループ・司法面接支援室

グループ代表

北海道大学大学院 文学研究科 教授 仲 真紀子

## 多専門連携による司法面接の推進と実事例支援

司法面接とは、法的な判断・意思決定にも使用できる精度の高い情報を、被面接者の心理的負担に配慮しながら聴取し、正確に記録することを目指す面接法です。代表者とその研究グループは、2007年から司法面接法の開発・改善を進め、また、専門家・実務家へのトレーニングを行ってきました。記憶の汚染や変容を防ぎ、精神的負担を低減するには、面接回数を最小限にすることが重要であり、そのためには、多専門連携が欠かせません。折しも2015年10月、厚生労働省、警察庁、最高検察庁は「協同面接」、すなわち児童相談所、警察、検察による協同での事実確認を推奨する通知を出しました。連携は、ますます喫緊の課題となっています。

しかし、専門家を対象とした調査によれば、他の専門機関に関する知識や理解が十分でなく、協同経験も少ないことが連携を阻む要因の一つとなっています。本プロジェクトでは、基礎的・実証的研究にもとづき、福祉、司法の専門家が協同して司法面接を習得する研修プログラムを開発し、その実施を支援します。また、司法面接のトレーナー育成を通じて、司法面接のスキルをもつ人の増加を図ります。



## グループのメンバー

仲グループ・司法面接支援室は、以下のメンバーにより構成されています。

- 仲 真紀子（北海道大学大学院 文学研究科・教授）
  - ・本プロジェクトの統括：仲プロジェクトのリーダー、司法面接支援室代表
  - ・多専門連携を推進する司法面接研修プログラムの開発と実装、事例の支援、基礎研究・調査

<司法面接支援室（北海道大学大学院 文学研究科）>

- 武田 知明（博士研究員）：司法面接支援室のマネジメント、司法面接研修・トレーナー研修の運営、企画、IT
- 名畑 康之（学術研究員）：司法面接支援室の運営、司法面接研修およびトレーナー研修の運営、フィードバックの蓄積・管理、データ分析
- 尾山 智子（学術研究員）：司法面接支援室の運営、司法面接研修およびトレーナー研修の運営、フィードバックの蓄積・管理、データ分析
- 高橋 文代（学術研究員）：司法面接支援室の運営、司法面接研修およびトレーナー研修の運営、広報
- 立花 恵里佐（研究・事務補佐員）：司法面接支援室の運営、司法面接研修およびトレーナー研修の運営、研修での子ども協力者への対応

- 田中 周子（立正大学 心理臨床センター・臨床心理士）：研究開発実施者、実務家への研修の企画・実施、面接支援

- 上宮 愛（名古屋大学大学院 環境学研究科・博士研究員）：研究開発実施者、実務家への研修の企画・実施、研修プログラムの要素となる基礎研究



## 具体的な活動

司法面接研修プログラムをベースに多専門連携を促す要素を加え、福祉、司法の専門家が協同して参加できるプログラムを開発し、実施しています。また、そこでのフィードバックや基礎研究により、プログラムの改善を行っています。

北海道大学内外での司法面接研修（多専門連携を推進するプログラムを含む）は昨年度11月より3月までに16回、621人の専門家に対して行われました。また、2016年6月の北大司法面接研修では、トレーナー育成研修も実施しました。その他、国内誌、国際誌、書籍等による発信を行い、国内学会、国際学会でのシンポジウム、チュートリアル、児童相談所、警察、検察、弁護士会、教育委員会等でのシンポジウム、講演、研修なども成果の発信を行っています。



徳山大学 福祉情報学部 教授 羽渕 由子



### 通訳・仲介者のいる面接のあり方と支援

出来事や気持ちをうまく伝えられないことで、助けを求められなかったり、問題の発見や解決が遅れたりする事例は、子どもだけでなく、ことばのサポートが必要なすべての人に共通する問題です。羽渕グループでは、子どもの司法面接法を応用し、主に外国人を対象として通訳・介入が必要な司法面接について研究をおこないます。そして、弊害が少なく、かつ、現場での実用性を備えた面接法やツール、訓練（研修）プログラムの開発をおこないます。

- 羽渕由子（徳山大学 福祉情報学部・教授）：グループ代表
  - ・専門分野：心理言語学・認知心理学
  - ・担当内容：通訳・介入を要する司法面接の研究、実験・調査の計画と実施、研修の企画・実施

### 研究のバックグラウンド

文部科学省平成 23 年度科学研究費補助金（新学術領域研究）「法と人間科学」のプロジェクト「子どもへの司法面接：面接法の改善その評価」（仲 真紀子 H23-27）および、「外国人留学生に対する面接のガイドラインの開発：中国語母語話者を中心に」（羽渕由子 H26-27）、「目撃者遂行型調査の効果の検討」（松尾加代 H26-27）に基づき、2015 年秋より、国立研究開発法人「科学技術振興機構（JST）」の社会技術研究開発センター（RISTEX）の支援を受け、研究を継続しています。

### グループのメンバー

本グループは、5 名で研究開発を推進していきます。子どもの司法面接法をベースとして、通訳・介入が必要な対象者から情報を引き出す方法について検討します。松尾・三浦は、対象者自身が記述で出来事を報告する方法の可能性と限界について、赤嶺・羽渕は効果的な通訳・介入の方法について、立部・羽渕は対象者の口頭会話能力の査定方法や面接時に用いることばの適切性について検討します。

- 立部 文崇（徳山大学 経済学部・准教授）：
  - ・専門分野：日本語教育
  - ・担当内容：外国人を対象とした司法面接に関わる日本語口頭能力査定研究



- 赤嶺 亜紀（名古屋学芸大学 ヒューマンケア学部・准教授）：
  - ・専門分野：認知心理学
  - ・担当内容：外国人を対象とした司法面接、通訳の影響の調査

- 松尾 加代（明治大学 研究知財戦略機構・研究員）：
  - ・専門分野：認知心理学
  - ・担当内容：目撃者遂行型調査（S A I ©）を用いた記憶の再生の検討

- 三浦 大志（慶應義塾大学 先端研究センター・研究員）：
  - ・専門分野：認知心理学
  - ・担当内容：目撃者遂行型調査（S A I ©）を用いた記憶の再生の検討



第 31 回 国際心理学会議（ICP2016）でのシンポジウム”How to Overcome the Language Barriers in a Multi-language Society -- When a foreign resident encounters an incident or an accident.”の様子

### 具体的な活動

本グループは、メンバーが東京、名古屋、山口に分かれています。WEB 会議や不定期に開催される会合で情報共有をしながら研究を推進しています。H28 年度は実験・調査を中心に活動をおこなっています。

#### 【活動実績】

31st International Congress of Psychology (ICP2016) Thematic Session "How to Overcome the Language Barriers in a Multi-language Society -- When a foreign resident encounters an incident or an accident."(2016.07.29)

四天王寺大学 人文社会学部 准教授 田中 晶子



### 司法面接と心理臨床の連携

多様な機関に所属する多くの専門家が、虐待被害にあった（あるいは、疑いのある）子どもへの支援を担っています。田中グループでは、子どもに対する事実確認（福祉・司法領域）と心身のケア（医療看護・心理臨床領域）の協働と連携について検討します。

子どもからの被害事実の確認と、子どもへの心身のケアはどのように両立していけば良いでしょうか。また、多様な専門性を持つ実務家がいかに連携し協働しながら子どもをサポートしていけば良いでしょうか。

このような問いに答えるため、子どもへの対応や被害の事実確認時の心理面への影響等の情報収集をします。また、子どもに対する受容的聴取と客観的聴取において得られる情報の違いについて実験的に検討します。さらに、虐待被害にあった子どもへの臨床的介入の形態を調査します。それらを踏まえ、事実確認と心身のケアに関する情報の提供と、多職種専門家間の効果的な連携の在り方について考える実務家研修を実施します。

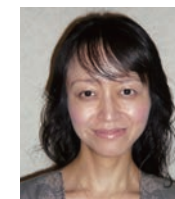
- 田中 晶子（四天王寺大学 人文社会学部・准教授）：グループ代表
  - ・専門分野：認知心理学
  - ・担当内容：子どもからの聴取の特徴について明らかにする実験や調査の実施、子どもと関わる様々な実務家を対象とする研修の企画・実施

### 研究のバックグラウンド

近年、虐待事案の対応では、福祉と司法の専門家・専門機関における連携が進んでいます。たとえば、子どもからの被害事実の聴き取りに有効である司法面接を使って、児童相談所と警察・検察は、被害事実を正確に確認し、虐待被害の早期発見につなげ、被害の拡大防止や、速やかな加害者への対処をめざし、連携を強めています。一方で、福祉と司法とともに、子どもへの診察や診断・治療、トラウマケアなどの心身のケアも重要な支援であり、これらは病院の医師や看護師、臨床心理士やカウンセラーが主に担っています。福祉と司法、さらに医療や心理領域における専門家・専門機関が連携の輪に加わることで包括的な子どもへの支援が可能になるでしょう。本グループの研究が、そのような連携の輪づくりに寄与することを目指しています。

### グループのメンバー

本グループは、2 名で研究開発を推進していきます。認知心理学を専門とする田中は子どもからの事実確認（司法面接）に関わる支援の立場から、臨床心理学を専門とする安田はトラウマを含む心のケアに関わる支援の立場から、両者が協働して研究を推進します。



- 安田 裕子（立命館大学 総合心理学部・准教授）：
  - ・専門分野：臨床心理学
  - ・担当内容：医療関係者・心理職・保育者等へのインタビューの実施、子どもと関わる様々な実務家を対象とする研修の企画・実施



### 具体的な活動

2014 年から 2015 年にかけて、事実確認と子どもの心理、その連携をテーマとした実務家研修を実施しました（「子どものための司法面接と体験を語る子どもの心理」：2014 年 11 月 24 日（大阪会場）・2015 年 1 月 12 日（大阪会場）、「子どものための司法面接と体験を語る子どもの心理—子どもへの包括的支援をめざして」：2015 年 11 月 23 日（名古屋会場））。3 度の研修を通して、児童福祉司、臨床心理士、警察官、家庭裁判所調査官、精神科医等のべ 100 名近くの幅広い職種の実務家の方にご参加いただきました。

研修には講義だけでなく、他職種との意見交換や連携を体験する機会（グループワーク）を取り入れています。研修参加者からの意見や要望を次の研修へと積極的に反映させることで、より効果的な研修の在り方についても検討しています。2016 年度は、さらに協働的なワークを重視する研修を大阪会場にて実施する予定です。関心をお持ちの実務家の皆様のご参加を心よりお待ちしております。



## 司法面接トレーナー研修（北海道大学）

2016年6月27(月)～29日(水)、北海道大学にて、第1回司法面接トレーナー研修を実施いたしました。本研修は、仲グループの司法面接支援室の武田研究員を中心に企画・運営し、研修参加者は4名でした。参加者は、警察、家庭裁判所、大学と多様な職種に参加いただけるよう調整し、司法面接に関する知識・経験レベルの基準として、定期的で開催される北海道大学での司法面接研修、またはそれに相当する研修に2日間の全日程を修了していることを条件としました。今回が初回となるトレーナー研修は、研修者のみならず、開催側にとっても多くの学びがある貴重な機会となりました。10、11月に開催するトレーナー研修にも反映し、より効果的な研修となるよう研鑽いたします。以下に参加者の感想をご紹介します。

(文責：司法面接支援室 高橋)



### 参加者の感想

#### 司法面接トレーナー研修に参加して

**参加者** 北海道警察本部 刑事部科学捜査研究所 技術職員 山本 渉太

私は北海道警察で心理職として勤務しており、警察学校で警察官を対象とした「心理学的知見を踏まえた取調べ」という講義を担当しています。今回の司法面接トレーナー研修には、研修技術の向上を目指して、参加させていただきました。

今回のトレーナー研修には私を含めて4名が参加し、3日間の日程で行われました。1日目は、司法面接に関する研修を行う際の留意点を学んだ後、北海道大学の司法面接支援室で活用されている面接室の設備の説明や見学、各参加者の自所属での取り組みについての紹介が行われました。2、3日目は、司法面接研修において、講義や面接演習の補助を行いました。面接演習の際には、資機材の設置や演習を円滑に進めるための補助、司法面接研修参加者への演習のフィードバックなどを行いました。これらの活動を通じ、北海道大学の司法面接研修の質の高さを再認識するとともに、研修の準備の重要性についても学ぶことができました。

また、司法面接研修参加者の皆さまを含め、トレーナー研修にも様々な所属・職種の先生が参加されており、多職種の視点とその取り組みについても知ることができました。多機関連携による協同面接が司法の領域で注目されている今、多職種が一堂に会して司法面接について学び、議論する本研修は、大変貴重な機会になりました。本研修で学んだ研修方法についての知見を、今後警察学校での講義などに活かしていきたいと思っております。



**参加者** 神戸学院大学 総合リハビリテーション学部 社会リハビリテーション学科 実習支援室 実習助手 岡田 強志

新たなプロジェクトの1期生トレーナーとして参加させていただきましたこと、とても光栄に思います。司法面接研修の前日は、最新の研究動向と研修実施方法を学び、司法面接研修当日には、研修会場・面接室の設営、研修参加者の目線でSE3Rの作成、面接演習のふりかえりにコメントをさせていただきました。研修参加者は実務のプロフェッショナルでもあり、一事例に対して福祉や司法、医学など多角的な観点で検証されるため、自然と学びの深みが増します。トレーナーはそこから得た知見を自身の学びとしてさらに深め、トレーナーとしての役割を担うことで二元的な技術を修得することができました。トレーナー間で交わされる意見交換も刺激となり、功を奏したことは言うまでもありません。

私は、司法面接の技術を児童福祉実践で応用することを目指しています。現在、社会的養護を担う児童福祉施設は、様々な逆境におかれた子どもたちを受け入れています。多様な子どものニーズに対応しきれず、施設内暴力や被措置児童等虐待が発生していることも事実です。このような艱難辛苦の状況を乗り越えるには、子どもの話を正確に聞き取ることから始めなければなりません。司法面接の技術を応用することで、子どものニーズを的確に把握し、真に必要な支援の展開が期待できます。この秘めた可能性を顕在化すべく、トレーナーとして司法面接技術の普及に努めてまいります。

## イベント実施リストとお知らせ

### 2015

- 11月19日 司法面接研修 (NICHD ガイドライン) 研修 [東京都]
- 11月30日～12月1日 司法面接研修 (NICHD ガイドライン) 研修 [千葉県]
- 12月5日 司法面接研修 (NICHD ガイドライン) 研修 [京都府]
- 12月16日 検察官、警察官、児童相談所職員合同模擬司法面接 [富山県]
- 12月17日 司法面接研修 (NICHD ガイドライン) 研修 [富山県]
- 12月21日 司法面接研修 (NICHD ガイドライン) 研修 [兵庫県]
- 12月24～25日 司法面接研修 (NICHD ガイドライン) 研修 [福岡県]

### 2016

- 1月7日 司法面接研修 (NICHD ガイドライン) 研修 [警察大学校]
- 1月12～13日 司法面接研修 (NICHD ガイドライン) 研修 [京都府]
- 2月29～3月1日 司法面接研修 (NICHD ガイドライン) 研修 [宮崎県]
- 3月19日 司法面接研修 (NICHD ガイドライン) 研修 [香川県]
- 6月27～29日 司法面接トレーナー研修 [北海道大学 (札幌市)]
- 6月28～29日 司法面接研修 (NICHD ガイドライン) 研修 [北海道大学 (札幌市)]
- 7月29日 ICP2016 Thematic Session” How to Overcome the Language Barriers in a Multi-language Society--When a foreign resident encounters an incident or an accident” [パシフィコ横浜 (横浜市)]

#### 法と心理学会 第17回大会・ワークショップ

#### 「多専門・多職種連携による司法面接の展開 ～通達からの1年を振り返り、今後の展開を考える～」

- 10月16日(日) 10:00～12:00
- 立命館大学 大阪いばらきキャンパス

虐待、DV、知人による加害など、被害者から報告が得られにくいケースが多くあり、面接の多重実施による精神的な二次被害も課題です。昨年10月に厚生労働省・警察庁・検察庁から、子どもの心理的負担等を配慮して三者が更に連携を強化するよう通達が出されました。通達から1年、“連携”はどうか？すでに連携実績がある京都府警察本部の三原先生から話題提供いただきます。その後、指定討論者の意見を交えて、次の展開について考えます。

見を交えて、次の展開について考えます。

- 企画者：羽瀨由子 (徳山大学)、赤嶺亜紀 (名古屋学芸大学)、安田裕子 (立命館大学)、田中晶子 (四天王寺大学)、仲 真紀子 (北海道大学大学院)
- 話題提供者：三原 恵 (京都府警察本部)
- 指定討論者：市来電哉 (さいたま家庭裁判所)、主田英之 (兵庫医科大学)、仲 真紀子 (北海道大学大学院) (敬称略)

#### 子どもと関わる実務家のための研修

#### 「虐待を受けた子どもへの支援：被害確認と心身のケア ～多職種専門家における効果的な連携の在り方について～」

- 10月30日(日) 9:00～17:00
- 立命館大学 大阪いばらきキャンパス

様々な機関の専門家が、事件や事故に関係したあるいは虐待被害の疑いがある子どもたちへの支援を担っています。このような子どもからの被害事実確認と臨床的ケアの両立、多様な専門性を持つ実務家の連携は、子どもをサポートしていく上で重要な課題です。本研修では、被害事実の確認に有効な司法面接の講演と演習および、トラウマとしての虐待被害と心理ケアに関する講演を行い、さらに、グループ演習で多職種専門家間の

効果的な連携の在り方について考えます。申し込み方法など詳しい情報は、北海道大学・司法面接支援室のホームページ (<http://child.let.hokudai.ac.jp/training/?r=310>) をご覧ください。

- 講師：上宮 愛 (名古屋大学大学院)、田中晶子\* (四天王寺大学)、安田裕子\* (立命館大学) (敬称略) \*は、企画者です。